

6 自主学習プロジェクト

【誰もが取り組む、学習習慣と基礎の定着をめざす最低限の自主学習】 ◇ねらい

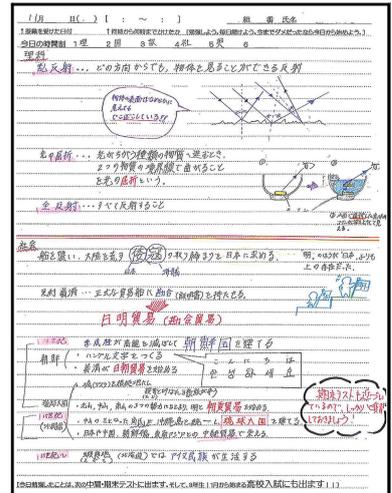
毎日必ず机に向かう習慣を付け、自ら学ぶ力を伸ばす。
30分から1時間が目安。

◇方法

- ①帰りの会で「生活記録ノート」を使って家庭学習計画を立てる。
 - ②B5の罫線入りの所定の用紙を配付する。
 - ③家庭でその日の授業で一番大切だと思うことを用紙にまとめる。
Better!：図表にまとめたり、色使いを工夫したりする。
自分の言葉で分かりやすくまとめる。
 - ④登校したら各クラスにある箱に提出する。
 - ⑤提出された用紙を校長を含む全教職員がローテーションを組んで、チェックをしたりコメントを書いたりする。
 - ⑥各クラスの学習委員が本人に返す。
 - ⑦A4サイズの自主学習ノートに各自貼付する。(1冊目は学校が配付)
- ※毎日、このサイクルを繰り返す。

◇保護者の理解・協力

- ・保護者宛通知「本校の学力向上対策」を作成・配付する。
- ・三者(二者)懇談の機会に取組状況について保護者に伝える。
- ・学校日よりや学年日よりよい取組を知らせる。
- ・学年PTA部会で取り上げて話し合う。



(生徒の取組例)



(校長先生もチェック&コメント)

7 家庭向け学習通信・教職員向け通信の発行

【1】家庭向け学習通信の発行により、学力向上を図っている取組

調査結果からみえてきた傾向や課題について家庭に周知し、家庭と連携協力することにより、子どもたちの学力向上を図っていくために発行している。

調査結果の分析や学力向上策について発信した内容の例

- 質問紙調査の中から
 - ・家族との関わり方など、家庭でのコミュニケーションに関する実態の報告
 - ・メディアとの関わり方や生活習慣・家庭学習などの課題に対する家庭への協力依頼
- 教科に関する調査結果から
 - ・「朝の学習」や「校内一斉テスト」の取組など本校の学力向上策の紹介
 - ・校内研究授業や授業研究会の実施など授業改善を図っている様子の紹介

ノーメディアチャレンジ実施後に発信した内容の例

- 子どもたちの感想：「メディア以外の楽しみが見つかった。」
「集中して勉強できた。」など
- 家の人からの感想：「子どもとの会話が増えた。」
「時間の使い方にメリハリができた。」など

【2】教職員向け通信の発行により、学力向上を図っている取組

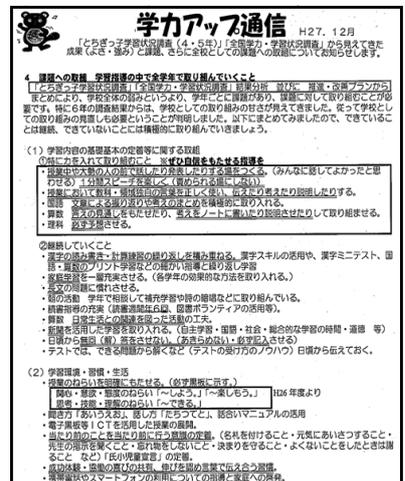
学習指導の中で全学年で取り組んでいく事柄について、学力向上担当者が提案し全職員が共有できるように通信を作成している。

共有するために発信した内容の例

- 特に力を入れて取り組むこと
 - ・教科、領域特有の用語を正しく使って、伝えたり説明したりする。
 - ・文章による振り返りや自分の考えをまとめる活動を積極的に行う。
- 継続していくこと
 - ・朝の活動で補充学習や詩の暗唱に取り組む。
 - ・家庭学習を充実させる。
 - ・新聞を活用した学習を取り入れる。
 - ・日頃から無解答をさせない。



(学習通信による啓発)



(学力向上担当者からの提案)